

2014春季生活闘争・要求提出日を迎えて

～ 社会的労働運動として、「安定雇用」「公正処遇・均等待遇」を実現しよう ～

全 労 金 中 央 闘 争 委 員 会
中央闘争委員長 石田 輝正

全労金2014春季生活闘争・全国統一要求提出日を迎えました。本日、全国14単組が揃って経営側に要求書を提出し、2014年度の労働条件を決定する本格的な労使交渉が始まりました。

全労金春季生活闘争は、連合2014春季生活闘争の基本的考え方にある「正規・非正規、組織・未組織に関わりなく、すべての働く者の処遇改善の実現をめざし、公正で安心・安定的な社会の実現に向けて邁進する」、また、スローガンで掲げた「すべての働く者の処遇を改善し、底上げ・底支え・格差是正を実現しよう！」を踏まえて、すべての労金労働者を対象とした「安定雇用」「公正処遇・均等待遇」「ワークライフバランスのとれた働き方」の実現に向けて、全労金組織全体で課題を共有し、全国14単組が統一した取り組みを展開することとしました。具体的には、これまでのように「統一要求項目（※すべての単組が必ず要求する項目）」は定めませんが、全労金組織全体で取り組む「統一方針」と位置づけ、①「安定雇用」の実現に向けて、期間の定めのない雇用（無期転換権の付与）の制度化や正職員登用制度の確立等に取り組む、②「公正処遇」の実現に向けて、労働契約法の「不合理な労働条件の禁止」を踏まえた嘱託等労働者の賃金・一時金・退職金等の処遇改善に取り組む、③「ワークライフバランスのとれた働き方」の実現に向けて、ディーセント・ワークの追求、ワークルールの再構築、労働時間の短縮等に取り組む、とした統一取り組みに沿って、各単組が要求を決定することにしました。

本日、全国14単組が経営側に求めた要求項目は、こうした社会的労働運動としての役割発揮を踏まえた全労金方針を基本として、各単組における職場実態や経営状況を踏まえながら真摯に議論を積み重ねてきたものです。そして、この数年間、労金業態の最重要課題として位置付けてきた「次世代システムR・ONE」の完全移行を実現させた職員・組合員の奮闘と、アール・ワンシステムの有効活用・事務の効率化による競争力を強化していくために求められる努力や期待に応えていくために、全組合員の総意で確立したものです。

全労金に結集する全国14単組、9000名の仲間の皆さん。労働金庫の事業は、労働金庫業態に働くすべての職員の努力や奮闘によって成り立っています。だからこそ、私たちは労働金庫事業の安定と厳しい環境を乗り越えるために、すべての労金労働者を対象とした「安定雇用」と「公正処遇・均等待遇」の実現を求めています。

本日以降、単組闘争委員会を中心に、金庫・経営側との交渉が進められることとなりますが、春季生活闘争における交渉は、全労金組織全体の組織力と組合員一人ひとりの想いや拘りが“大きな力”になります。全労金2014春季生活闘争は、3月25日が統一回答期限日となります。全国14単組・全国9000名の組合員との団結と、同じ職場に働く仲間との連携を力にして、社会的労働運動としての労金労組の役割を果たし、全労金組織全体で力強く闘い抜こう！